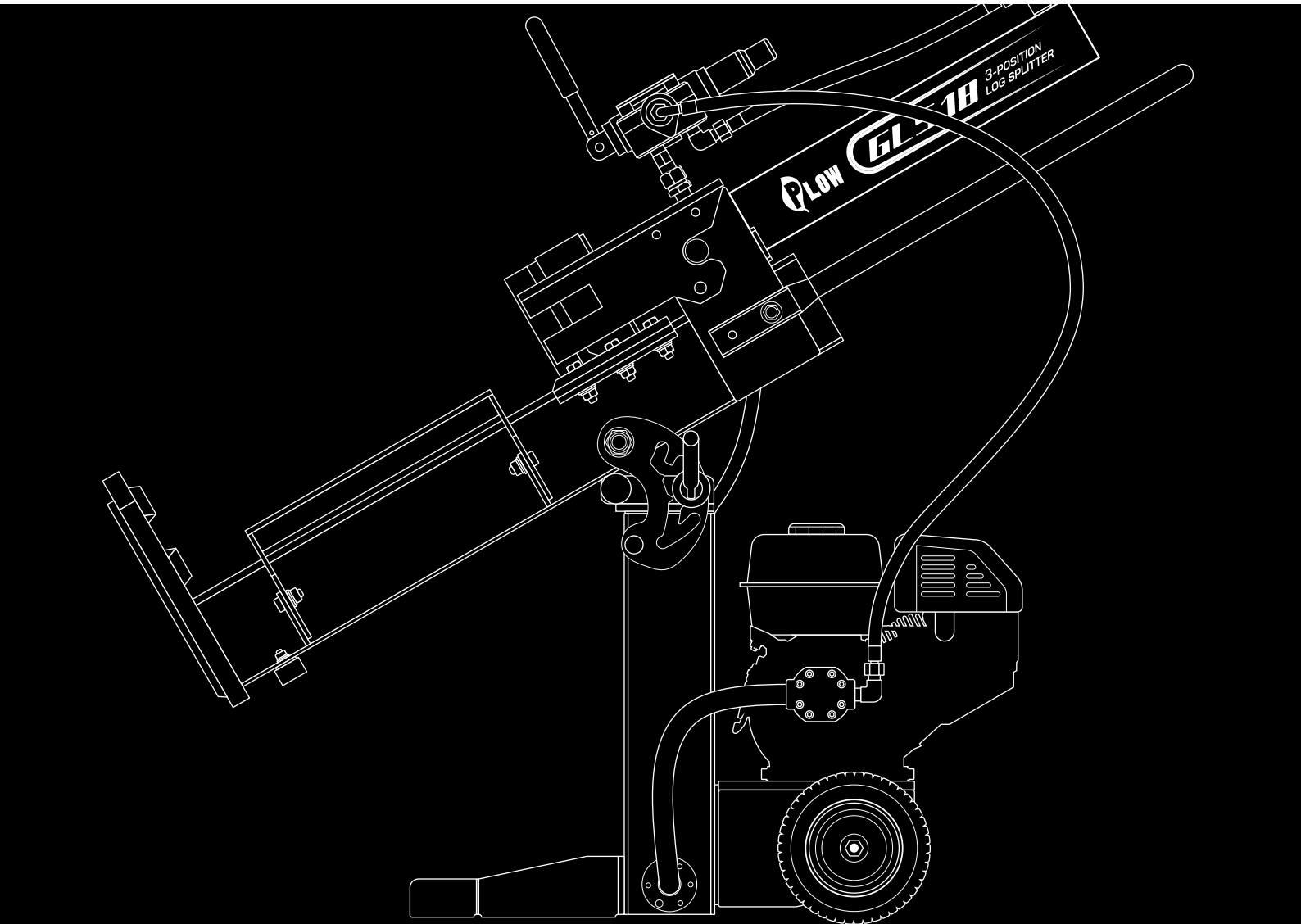
プラウ スリーポジション薪割り機

GLS18

OPERATING MANUAL



はじめに

この度は、当社のスリーポジション薪割り機 GLS18 をご購入いただき厚くお礼申し上げます。
本製品がいつまでもお役に立ちますよう、取扱説明書を十分お読みの上、ご使用ください。
メーカーは、機械の用法、運転、点検、整備を直接監督指導することはできません。
正しく安全に作業を実施するのは、あなた自身です。
尚、この取扱説明書で述べていることの他にも作業によっては、
法令、条例、規則や保険条件などが適用されることがありますので十分ご注意ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。
尚、仕様変更などにより本製品と取扱説明書の内容が異なる場合もありますのであらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本機を使用する前に、この取扱説明書を最後まで読み、内容を十分に理解してください。操作する方は、安全上の注意、操作方法、点検・整備、保管方法を理解したうえで本機を使用してください。誤った操作や不適切な点検･整備は、使用者や周囲の人の重傷事故、または本機の損傷につながるおそれがあります。

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。なお、ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し必ず所定の位置に貼ってください。ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

注意表示に関して

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項に関して次のように表示しています。

⚠ **危　険** ･･･ 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警　告** ･･･ 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意** ･･･ 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示しています。

重　要 ･･･ 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれがあるものを示しています。

補　足 ･･･ その他、使用上役立つ補足説明を示します。

もくじ

⚠ 安全作業のために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1 サービスと保証について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2 各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
3 エンジン始動前に
1 作業前の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
2 エンジンオイルの点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
3 油圧オイルの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4 燃料の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
5 タイヤの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4 エンジンの始動・停止の仕方
1 エンジン始動方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2 エンジン停止方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
5 操作方法
1 姿勢変更 水平型・ナナメ型・垂直型 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2 薪割り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
3 薪割り機の移動方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
4 ご使用後の確認事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
6 保守点検
1 点検整備の注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
2 仕業点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
3 定期点検・整備（定期点検一覧表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
4 燃料について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
5 エアクリーナー点検・清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6 プラグ清掃・交換について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
7 油圧オイルについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
8 エンジンオイルについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
9 ビームのグリス要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
7 寒冷期注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
8 長期保管時の注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
9 トラブルシューティング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
10 仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
パーツリスト・保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

⚠ 安全作業のために

1　安全５憲章

安全に作業するための基本です。作業前には復唱し守ってください。

❶ 作業開始前に仕業点検をおこないます。

❷ 道路は走行しません。

❸ 路肩・崖地などを走行するときは、転落などに注意して走行します。

❹ 点検整備するときは、必ずエンジンを止めておこないます。

❺ 作業は原則１名で行い、複数人で作業を行いません。

これ以外にもぜひ守って頂きたい注意事項を本項の”安全作業のために”でまとめて取り上げておりますので、よくお読みいただいて必ず守ってください。

2　安全作業のために、次のことがらを必ず守ってください。

本製品（今後は本機と呼びます）を使用する前に、必ずこの取扱説明書並びにエンジンの取扱説明書をよく読み、十分理解した上で安全な作業をしてください。

ちょっとした油断、不注意から事故を起こさないため、次の注意事項は特に注意して常に安全に作業してください。

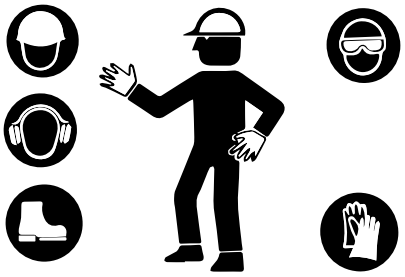


作業をはじめる前に

1　安全な服装で！

服装はキチンとした、だぶつきの無い活動的なものを着用し、ヘルメット、安全靴や長靴を着用の上、作業に適した安全防護具を使用してください。

また、作業中の安全を考慮し、ラジオあるいはミュージックヘッドホンなどを使用しないでください。



2　必ず仕業点検を！

本機を使用される前に必ず仕業点検を実施してください。

❶ 各部の油量および漏れの点検

❷ 各部の油脂状態

❸ 各部のボルト、ナットのゆるみ点検および増し締め

❹ 各レバー類の動きが正常かどうかの点検

❺ 損傷または摩耗した部品は、使用前に交換または修理をしてください。

※ 仕業点検により不具合が発見された場合には、直ちに補修などの措置を講じてください。

絶対に、不具合・異常のある状態で使用してはいけません。

3　夜間移動・作業禁止!

夜間に移動・作業をしてはいけません。

4　作業者の制限!

1）次に該当する人は、本機の作業に従事しないでください。

① 酒気を帯びた人　② 若年者　③ 未熟練者

④ 過労、病気、薬物、飲酒の影響その他の理由により、正常な作業ができない人

⑤ 本書およびラベルの内容が理解できない人や子供

2）作業が続く場合には、健康に留意し、適当な休息と睡眠をとってください。

妊娠中の方は、作業に従事しないでください。

5　目的以外使用の禁止!

本機は定められた目的以外のために使用すると、機械の安全性が損なわれる場合があります。

危険ですから本機に人や動物を乗せてはいけません。

6　改造などの禁止!

本機の改造は危険ですので絶対におこなってはいけません。

故障の原因になるばかりか人身事故にもつながります。

7　機械を貸与する際の注意!

本機を他人に貸す場合は、操作方法などをよく説明し取扱説明書を手渡してください。また借りた人が作業前に取扱説明書をよく読み、操作方法を十分理解してから作業を開始するように指導してください。

8　安全バーやストッパーの取り外し禁止

安全バーやストッパーなどを取り外して使用しないでください。また、万一破損、紛失した場合は速やかにご購入された販売店にお問い合わせの上、交換、修理を行ってください。

破損、紛失したままでのご使用は大きな事故や負傷につながる恐れがあります。

9　密閉室内での作業の禁止・換気に注意!

エンジンは有毒ガスを発散しますので、密閉した室内又は換気の悪い場所で使用してはいけません。排気ガスが空気を汚してガス中毒をおこす危険があります。換気には十分注意してください。



10　火気厳禁!

燃料の補給時や潤滑油、オイルなどの給油・交換時は、エンジンを止めてください。また、火災や引火爆発のおそれがありますので、くわえタバコなどの火気は絶対に近づけてはいけません。こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性がある場合は、エンジンが冷えきってから補給してください。



11　やけどに注意!

エンジン運転中および停止直後のエンジン・マフラーなどは、高温のため触れるとやけどの危険があります。点検・整備などをおこなう場合は、エンジンの各部が十分に冷えてから（停止後30分以上）作業してください。



作業中

1　人や物を乗せての走行禁止!

本機などに人や物を乗せて移動しないでください。転落などの傷害事故を起こすおそれがあります。子どもを本機へ近づけないでください。本機の上で遊ばせたり、登らせたりしないでください。

2　エンジン始動時の注意!

エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。

○本機の周囲に人がいないことを確認してください。

○エンジンの周囲に可燃物がないことを確認してください。

○始動する場合、リコイルスターターハンドルを最後まで引ける十分なスペースがあることを確認してください。

3　可動部に注意!

エンジン始動中はウェッジ（斧）やビーム部分に手や足などを近づけないでください。また、破砕時に丸太に手や足を近づけたりすると巻き込まれる危険がありますのでくれぐれもご注意ください。点検・整備を行う場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。

4　異常を感じた時の措置!

音や振動などで本機に異常を感じたときは、直ちにエンジンを停止させ、点検・修理などの適切な処置をとってください。

5　移動時の注意（転倒・事故防止）

本機を移動する際は、大きな穴や段差、溝を避け、無理な体勢で押さないでください。起伏のある場所や斜面、川・溝の近くでは機体のバランスに十分注意し、速度を落として手押し移動してください。走らず、必ず歩く速度以下で慎重に移動してください。

6　傾斜地での使用禁止!

傾斜地でのご使用は大変危険です。必ず水平で安定した場所、また周囲の安全の確認できる場所で本機をご使用ください。

7　破砕できない場合の注意!

本機の最大破砕力である18トンを超える使い方はしないでください。丸太が割れず、シリンダーが途中で停止して5秒以上経過した場合は速やかにウェッジを戻してください。そのまま続けると油圧オイルの温度が上昇し本機を破損する恐れがあります。薪が割れない場合は破砕面を変えたり節などをずらしてみてください。それでも割れない場合は本機の破砕力を超える薪であることを理解してください。また釘や金属が打ち込まれた木や一度に二本以上の木などを使用しないでください。事故や故障を引き起こす危険があります。

8　複数人での作業の禁止

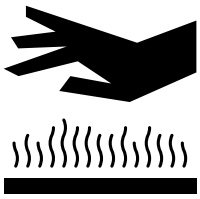
薪割り作業は1人で作業を行ってください。複数人での作業は思わぬ事故を招く恐れがあります。また作業者以外の人を半径5メートル以内に近づけないでください。

9　作業者のエンジン始動中の退出禁止

作業者はエンジン始動中は決して本機を離れないでください。離れる際は必ずエンジンを停止してください。

10　高温部への接触禁止!（やけど注意）

運転中および運転直後は、エンジン本体やマフラー、ならびに油圧系統（シリンダー、油圧タンク、ホース、接続金具など）が非常に高温になります。触れると重度のやけどを負う恐れがあります。作業中および本機が十分に冷めるまでは、絶対に触れないでください。



11　長時間連続作業時の注意!

過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず、1 時間に1度程度の途中休憩を取ってください。エンジンをかけたまま本機を放置しないでください。誤って操作されると思わぬ事故の原因になることがあります。

12　挟まれ・切断に関する注意!

本機の運転中は、手や足を可動部、ウェッジ（斧）、ビームの摺動部から離してください。作業場所は常に整理し、割った薪、木片、その他の障害物をこまめに取り除いてください。

作業時は、保護メガネ、作業用手袋、安全靴または滑りにくい作業靴など、適切な保護具を着用してください。



作業が終わったら

1　終了時点検の実施を!

作業終了後に本機を清掃し次の作業の安全を確保するため、各部の点検をおこない異常が認められた場合は、補修などの措置を講じてください。

2　本機の格納は冷えてから！

本機を格納するときは、エンジンやマフラーなどの高温部分が冷えてから、燃えやすい物が近くにない場所に格納してください。乾いた木片や薪などの燃えやすい物の近くに格納・保管すると火災の原因となり危険です。



3　点検・整備のときは適正な工具の使用を!

点検・整備のときは、適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検・整備をおこなうと、作業中のけがや整備不良による事故の危険性があります。

4　本機を輸送する際の注意！

車への積み降ろしは必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。また車で移動する際は燃料を抜いて本機をしっかりと固定してください。

5　長期保管前の燃料タンク・キャブレターの確認！

長期保管前には、燃料タンクの内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気の無い場所に保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。

⚠ 開封および取り出し時のご注意



本機（GLS18）は木箱等で梱包して出荷しています。開封時の怪我を防ぐため、作業の際は必ず手袋や安全靴などの保護具を着用し、木片や留め具の釘にご注意ください。また、本体を木箱から取り出す際は、落ちた釘や留め具の釘などを踏んでタイヤを傷つけたりパンクさせたりしないよう、足元と周囲をよく確認してください。

表示ラベルとその取扱い

1　表示ラベルの手入れと貼付位置

本機には安全についてのラベルが貼ってあります。良く読み理解した上で運転してください。

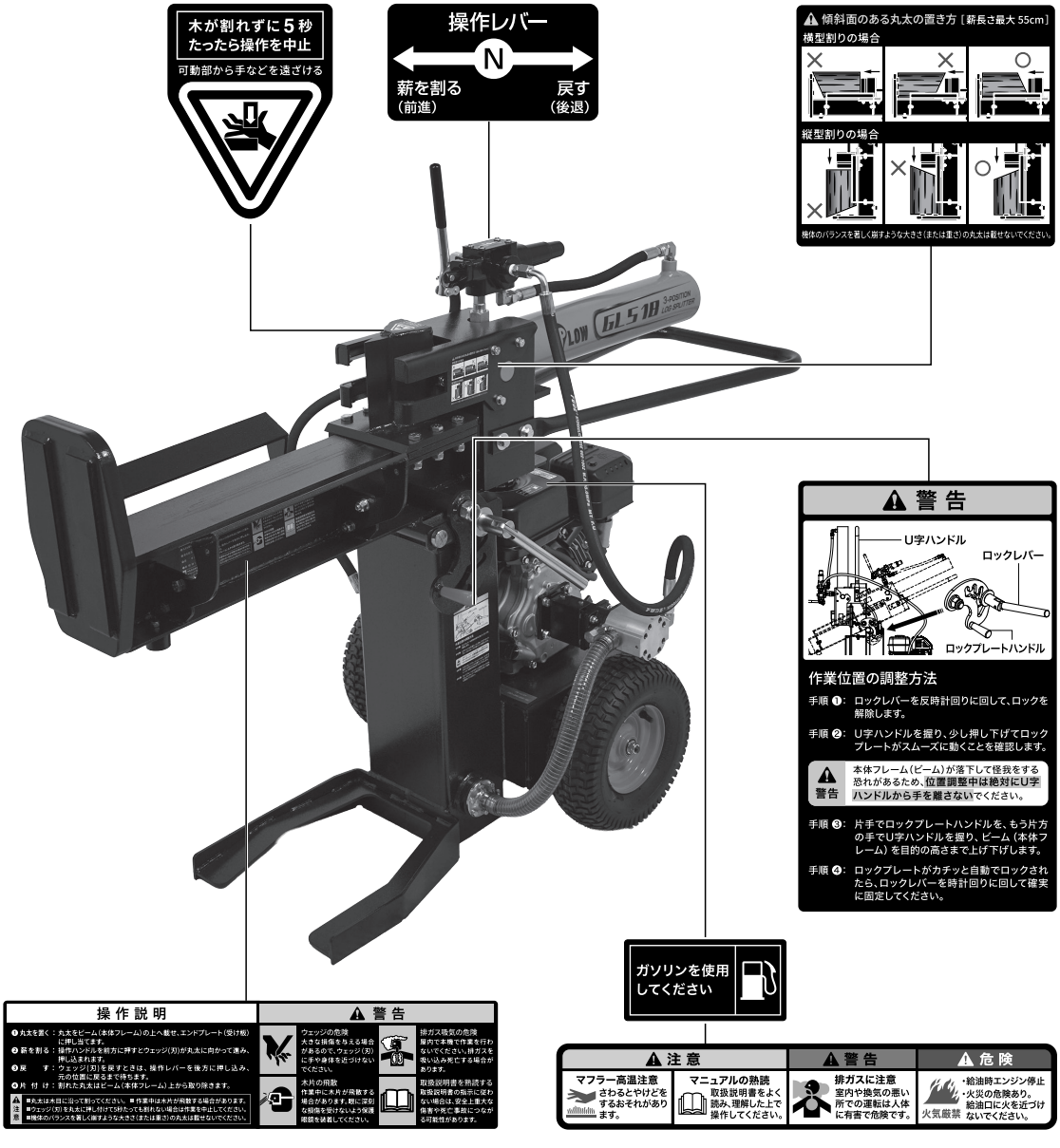
❶ ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。

❷ 汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し所定の位置に貼ってください。

❸ ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

❹ 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後元の位置に貼ってください。

□ラベル貼り付け位置



1 サービスと保証について

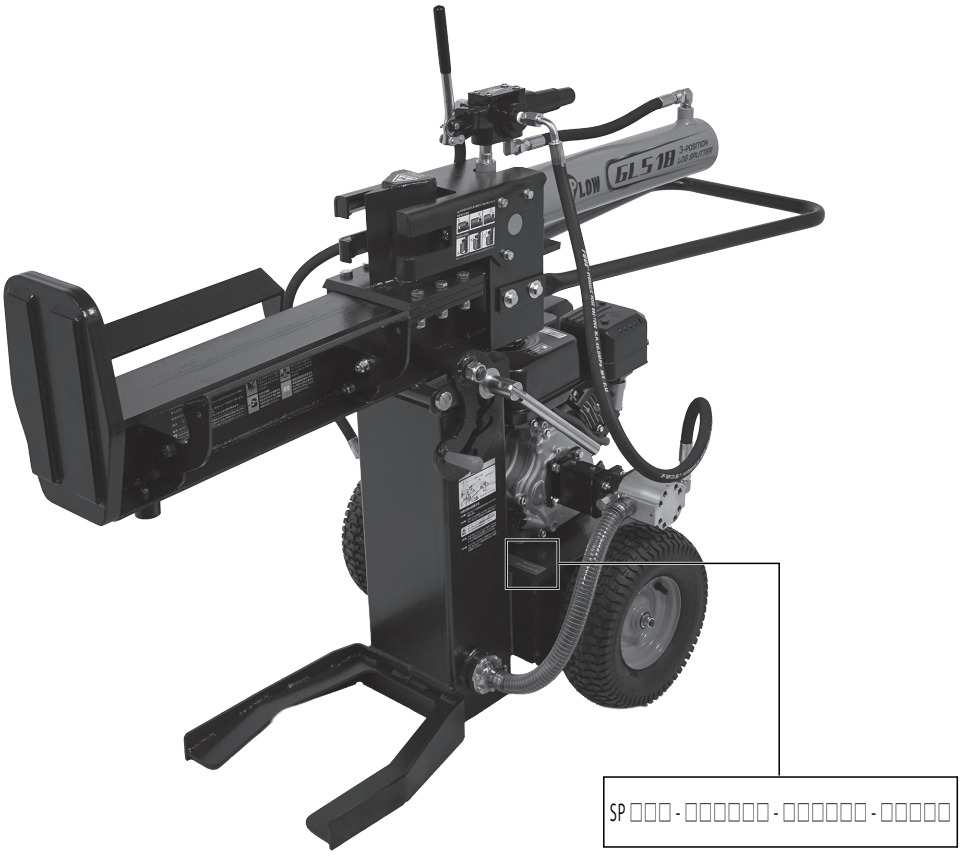
1 製品保証

本製品には、保証書が添付してあります。詳細は、保証書をご覧ください。

2 サービス（相談窓口）

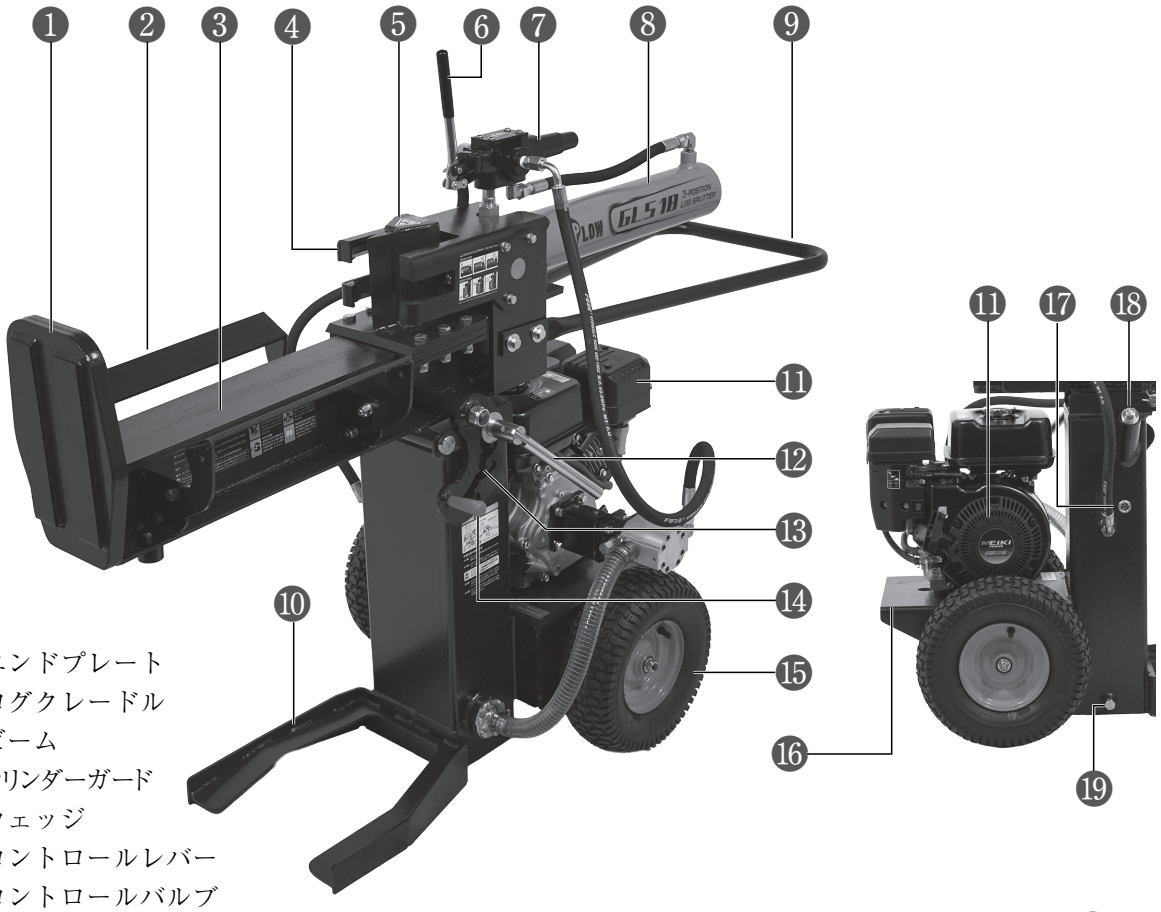
ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または当社営業所にお気軽にご相談ください。
その際、本機の型式と製造番号・搭載エンジンの型式・ご購入日などをご連絡ください。

□号機番号（シリアルナンバー）貼り付け位置

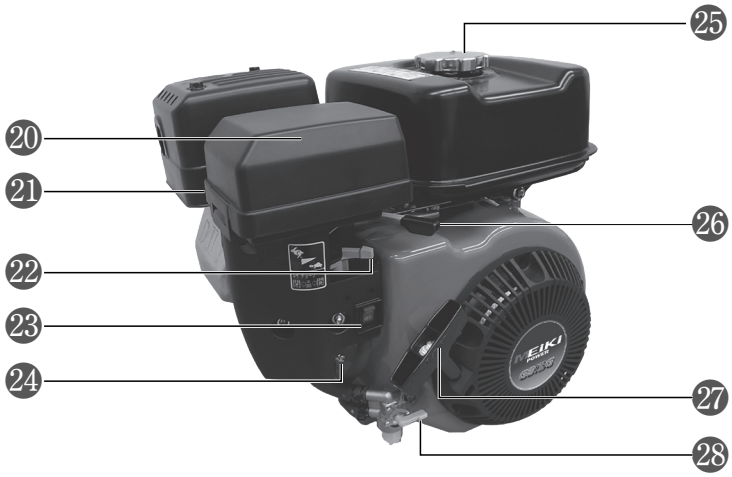


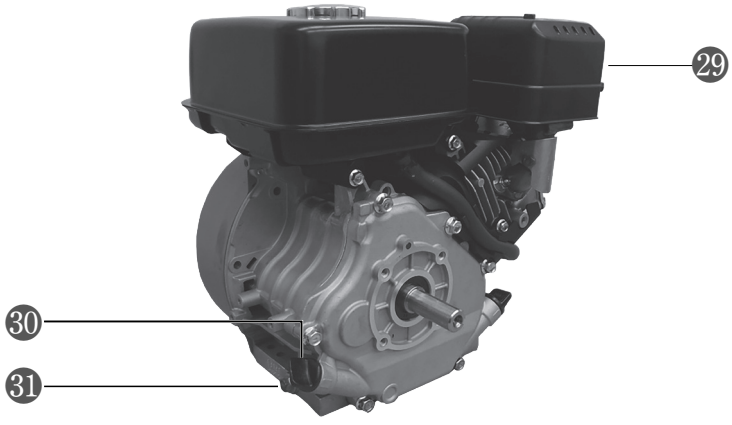
2 各部の名称

1 各部の名称



❶エンドプレート
❷ログクレードル
❸ビーム
❹シリンダーガード
❺ウェッジ
❻コントロールレバー
❼コントロールバルブ
❽シリンダー
❾Ｕ字ハンドル
❿サポートスタンド
⓫エンジン
⓬ロックレバー
⓭ロックプレート
⓮ロックプレートハンドル
⓯タイヤ
⓰エンジンベースマウント
⓱検油窓
⓲油圧オイル給油口
⓳油圧オイルタンクドレン
⓴エアクリーナー
㉑点火プラグキャップ
㉒チョークレバー
㉓エンジンスイッチ
㉔燃料タンクドレン
㉕ガソリン給油口
㉖スロットルレバー
㉗リコイルスターターハンドル
㉘燃料コック
㉙マフラー
㉚エンジンオイル給油口
㉛エンジンオイルドレン





3 エンジン始動前に

1 作業前の点検

使用前に自分と周囲の安全をしっかりと確保しましょう。事前のチェックを行うことで怪我の危険性が大幅に軽減されます。本書をよく読み停止方法や操作方法を習得してください。

■本体の点検

安全に本体を末永くご使用頂くためには事前のチェックが非常に重要です。使用前に修理箇所や問題が見つかった場合はすぐに販売店に修理を依頼してください。また、本書「6 項保守点検 2 仕業点検 19 頁」も合わせて確認してください。

⚠ 警　告　この薪割り機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。
最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行ってください。

⚠ 警　告　本書記載の使用前点検・使用後のメンテナンスが適切に行われていない場合の故障・不具合については保証期間内でも保証対象外となりますのでご注意ください。

■服装のチェック

○手・足・目・頭部に対し、適切なグローブ・安全靴・ゴーグル・ヘルメットがない場合は薪割り機の使用を中止してください。

○だぶつきのない活動しやすい作業服を着てご使用ください。また巻き込まれる危険のある装飾品や名札、ペンなどは身に着けて作業しないでください。

○作業場の安全を考慮し、ラジオやオーディオ、ヘッドホンなどを使用して作業しないでください。

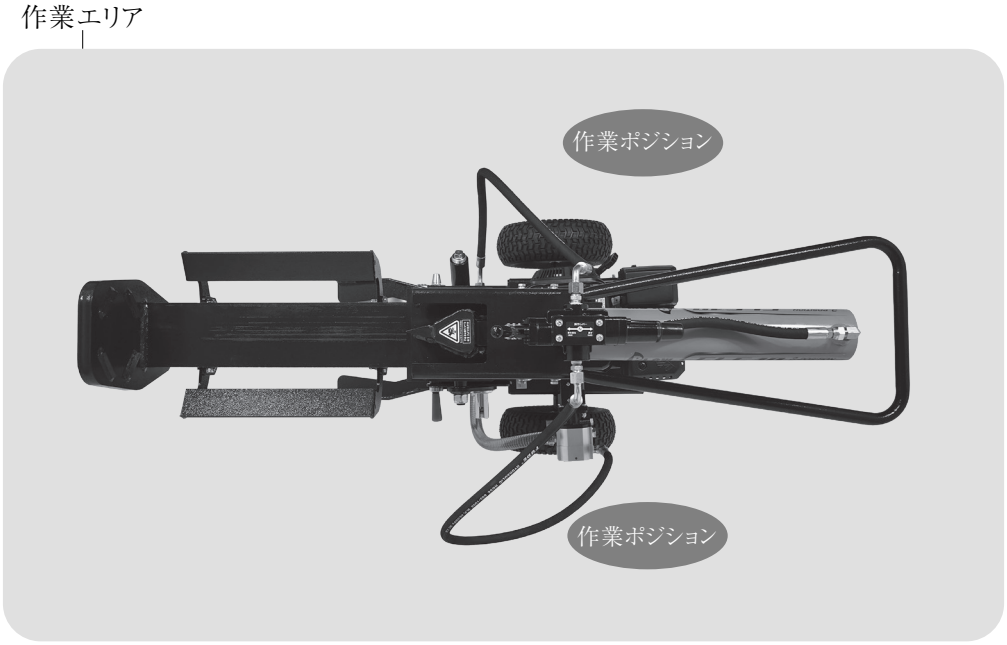
■タイヤのチェック

○タイヤの状態と空気圧を点検し、規定空気圧に調整してください。（ 3-5.「タイヤの点検」12 頁参照 ）

■作業ポジションのチェック

○作業者は●の位置に立ち作業を行ってください。複数人での作業は思わぬ事故の恐れがあるので行わないでください。

○作業者は作業エリア内に作業者以外が入らないように安全に気を配り作業を行ってください。

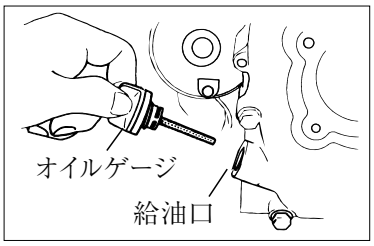


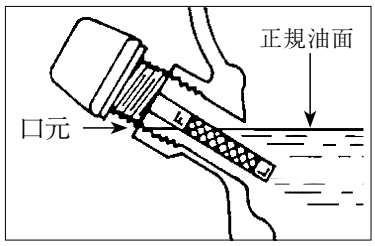
2 エンジンオイルの点検

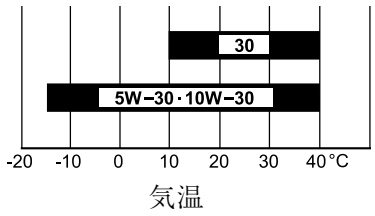
危　険 エンジンが温まっているとエンジンオイルが高温になっている場合がありやけどの危険があります。エンジンオイルの点検は必ずエンジンが冷えた状態で行ってください。

警　告 エンジン始動前に必ずエンジンオイルを規定量入れてください。正しい量のエンジンオイルを入れずに始動した場合はエンジンが故障します。この件での故障についてはいかなる理由があっても保証対象外となりますのでご注意ください。

注　意 エンジンオイルは使用時に燃焼したり、汚れたりしていきます。定期的に交換・充填を行うようにしてください。







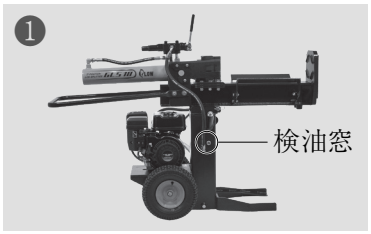
❶本機が水平になっていることを確認してください。

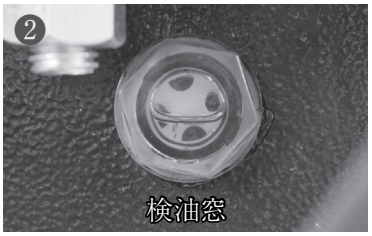
❷エンジンオイル給油口のキャップ / オイルゲージを取り外します。

❸オイルが給油口の口元まであるのを確認してください。

❹量が少なかったり、汚れている場合は交換・充填を行ってください。（エンジンオイルについて 21 頁参照）

3 油圧オイルの点検







❶薪割り機のシリンダーが冷えた状態で車体が水平になっていることを確認し、検油窓から油圧オイルの量を確認します。検油窓は本体サポートスタンドの側面にあります。

❷検油窓から見て真ん中あたりに油面が見えれば適量です。

❸油面が低い場合は油圧オイル給油口から油圧オイル（VG32）を適量になるまで給油してください。多い場合はオイルチェンジャーなどで給油口からオイルを抜き取ってください。

危　険 エンジンが温まっているときは油圧オイルのキャップ・ホースを取り外さないでください。高温のオイルが噴き出す恐れがあります。また本機は始動中、高い圧力と高温が本機内に発生し油圧オイルが極小の穴から噴き出す恐れがあります。高圧のオイルは皮膚を貫通して体内に侵入し、重傷を負うおそれがありますので絶対に触らないでください。万一、負傷をした場合はわずかな傷でも直ちに医師の診断を受けてください。

危　険 運転中および停止直後は、エンジン・マフラー・油圧機器（シリンダーやホース類）が非常に高温になります。触れるとやけどを負う恐れがありますので、本機が完全に冷めるまで絶対に触れないでください。

4 燃料の点検

○燃料は購入してから1か月以内の新鮮な無鉛レギュラーガソリンをご使用ください。

○古いガソリンや混合燃料は決して使用しないでください。

○タンク内は清潔に保ち水が入らないようにしてください。

○指定のガソリン以外のものを使用した場合のエンジントラブル・損傷や性能の低下はメーカー保証の対象外となります。

○ガソリンは塗装やプラスチック面に損傷を与える可能性があるのでこぼれた場合はすぐに拭き取ってください。こぼれた燃料による損傷はメーカー保証の対象になりません。

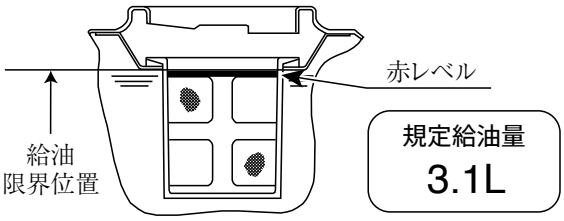
危　険 本機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行ってください。

■点検

燃料タンクキャップを外し、燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。

■補給

［使用燃料］ 無鉛レギュラーガソリン
燃料タンクキャップを外し、給油限界位置を超えないよう補給します。給油後、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。



5 タイヤの点検

警　告 タイヤに過度な空気を入れないでください。タイヤが破裂し、重傷事故につながるおそれがあります。タイヤが著しく摩耗または損傷しており、また空気圧を保持できない場合は、新しいタイヤに交換してください。

■点検

タイヤに摩耗や損傷がないことを確認し、タイヤの空気圧を点検してください。

■空気圧の調整

タイヤの空気圧が適正でない場合は、適正値になるよう調整してください。

ホイールサイズ	13 インチ（13 × 5.00-6）
タイヤ適正空気圧	220 ～ 250 kPa（2.2 ～ 2.5 kgf/cm^2）

※空気圧の調整はタイヤが冷えている状態で行ってください。
※最大空気圧（280 kPa）を超えて空気注入を行わないでください。

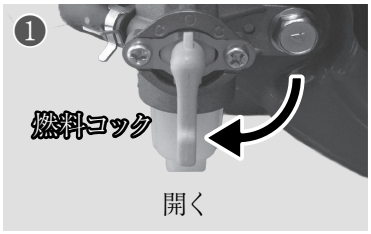
4 エンジンの始動・停止の仕方

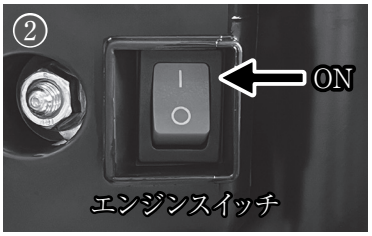
1 エンジン始動方法

警　告 本機は可燃性の強い燃料を使用し、排気ガスには有毒ガスが含まれます。使用時には屋外の換気の良い場所で行い、可燃物が近くにないことを確認してください。また使用中のタバコやライターなどの使用は大変危険ですので絶対におやめください。

注　意 エンジンを始動する前には必ず本書を最後まで熟読し、周囲の安全を確認ののち操作を開始してください。始動の前には必ず点検を行うようにしてください。点検の項目については「エンジン始動前に 10 頁」をご参照ください。

■エンジン始動の仕方







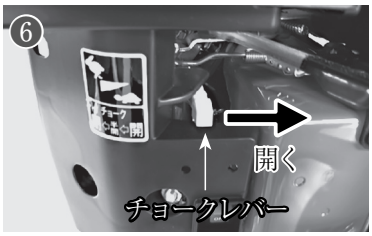
❶燃料コックを開きます。

❷エンジンスイッチを運転側（ON『｜』）にします。

❸スロットルレバーを高速の方（←）へ少し開きます。







❹チョークレバーを全閉（←）にします。

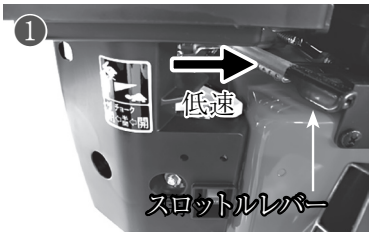
❺リコイルスターターハンドルを握って圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢い良く引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスターターハンドルをゆっくりと元の位置に戻します。

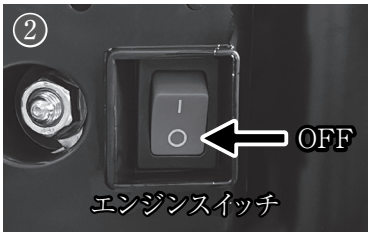
❻始動後エンジンの調子をみながら徐々にチョークレバーを全開（→）の位置に戻します。運転の調子が安定しない場合は、チョーク半開位置で暖機運転をしながら様子を見てください。

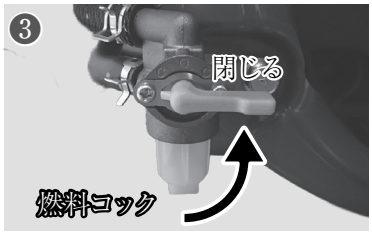
注　意 エンジン停止直後や気温が高い場合、チョークを閉じるとガソリン供給過多によりエンジンがかからない場合があります。その場合はチョークレバーを開けてリコイルスターターハンドルを引いてください。また、エンジンがかからずにリコイルスターターハンドルを何度も引いてしまうとプラグにガソリンが被り火花が飛ばない状態になる場合があります。その場合は少し時間を置き、再度始動してください。

2 エンジン停止方法

■エンジン停止の仕方







❶スロットルを低速（→）にして、1 ～ 2 分運転します。

❷エンジンスイッチを停止側（OFF『○』）にします。

❸燃料コックを閉じます。

注　意 エンジンを急停止するとエンジン各部の寿命を縮める恐れがあります。通常はスロットルを低速にし回転数を落として、しばらくおいてからエンジンを停止するようにしてください。

5 操作方法

1 姿勢変更　水平型・ナナメ型・垂直型

危　険 運転中および停止直後は、エンジン・マフラー・油圧機器（シリンダーやホース類）が非常に高温になります。触れるとやけどを負う恐れがありますので、本機が完全に冷めるまで絶対に触れないでください。

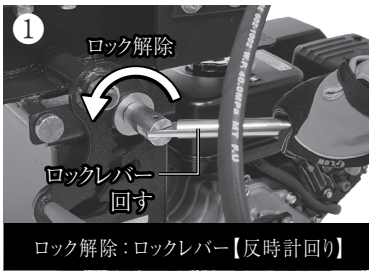
警　告 薪割り作業中は半径 5m 以内に作業者以外の人が立ち入らないようご注意ください。また、作業者はだぶつきのない作業しやすい服装で、作業手袋、ゴーグル、安全靴、ヘルメット等を着用して安全を確認して作業を行ってください。

警　告 縦横ナナメの姿勢変更を行う際は、必ずエンジンを停止し、油圧シリンダーの圧が抜けている状態で行ってください。また、斜面や凹凸のある場所で姿勢変更を行うと転倒する恐れがあります。必ず凹凸のない水平な場所に置いて行ってください。

注　意 姿勢位置の変更中は、U 字ハンドルから手を離さないでください。ビームが落下すると、挟まれ事故や本機の損傷につながるおそれがあります。

注　意 ビームを急に倒したり、落下させたりしないでください。指を挟んだり、本機を損傷したりするおそれがあります。

■水平姿勢（横割り型）→ ナナメまたは垂直姿勢（縦割り型）への切り替え







❶U 字型のハンドルをしっかりと持ち、ロックプレート機構の荷重が抜けるように軽く押し下げます。片手でロックレバーを反時計回りに回してロックを解除し、ロックプレートハンドルを操作します。

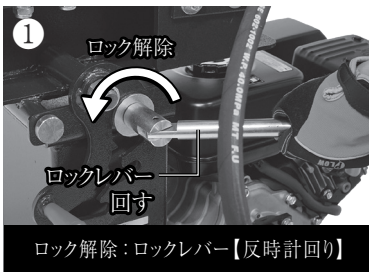
※もう片方の手でにぎったU 字ハンドルは決して離さないでください。

❷U 字ハンドルをにぎりながら、ビームをゆっくりと慎重に下げていき、希望の位置にします。※エンジンベースマウントの端に片足をかけながらビームを下げていくと、切り替えのバランスが安定しやすくなります。

（運転時のエンジンマフラーは高熱です。誤って触れないようにご注意ください。）

❸ロックプレートが所定の位置にかみ合ったことを確認し、ロックレバーを時計回りに回して確実に固定します。

■垂直姿勢（縦割り型）→ ナナメまたは水平姿勢（横割り型）への切り替え







❶ロックプレートのロックレバーを反時計回りに回してロックを解除します。

❷片手で U 字ハンドルをしっかりと握り、もう一方の片手でロックプレートハンドルを操作しながら、ビームをゆっくり倒し、希望の位置にします。

❸ロックプレートが所定の位置にかみ合ったことを確認し、ロックレバーを時計回りに回して確実に固定します。

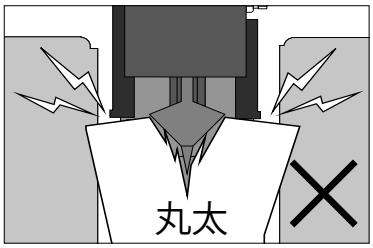
※片方の手は必ず U 字ハンドルをしっかりとにぎり、姿勢が固定されるまでは決して離さないでください。

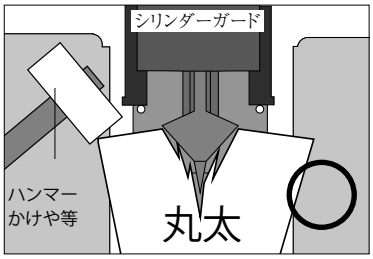
危　険 ウェッジ（斧）が動いている時は、本機や丸太から手・足・衣服を遠ざけてください。巻き込まれると重大なケガをする恐れがあります。また破砕時に木片が爆ぜて飛び散る場合がありますので注意してください。

警　告 薪割り作業中は半径 5m 以内に作業者以外の人が立ち入らないようご注意ください。また、作業者はだぶつきのない作業しやすい服装で、作業手袋、ゴーグル、安全靴、ヘルメット等を着用して安全を確認して作業を行ってください。

警　告 ウェッジ（斧）が丸太に到達し、5 秒たっても割れない場合はウェッジの前進を中止し、丸太の割り面を変えて再度試してみてください。それでも割れない場合は薪が本機の能力以上の強度であることを理解し薪割りを中止してください。無理に固い薪を割ろうとすると本機が損傷する恐れがあります。

警　告 割れない薪や丸太がウェッジに食い込みウェッジのリターン時に外れない場合は、そのままウェッジを戻さず必ずコントロールレバーを中立にして停止します。丸太が食い込んだ状態でウェッジを最後まで戻すと、シリンダーガードに丸太が衝突し、変形や破損をする危険があります。シリンダーガードは、シリンダーに薪や異物が当たらないようにするための保護カバーで、食い込んだ丸太を取る道具ではありません。絶対にシリンダーガードで食い込んだ丸太を取らないでください。丸太がウェッジに食い込んで外れない場合は、必ずウェッジを戻す前にコントロールレバーを中立にして停止し、ハンマーやかけやなどで丸太を取り外してください。薪や丸太などの衝突によるシリンダーガードの変形、破損は保証対象外となります。ご注意ください。

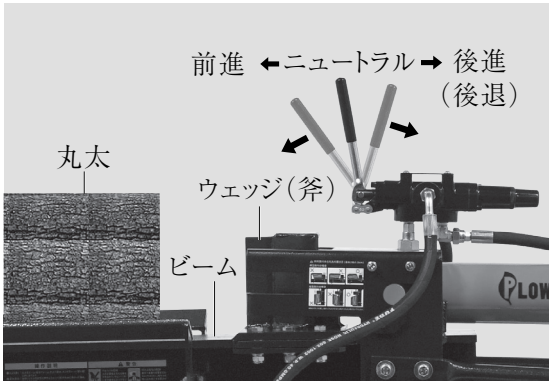




■コントロールレバーの操作方法

薪を割る際はエンジン始動後、2 ～ 3 分間暖機し、エンジンが安定したことを確認したらスロットルを Max（←）にします。薪を割る際はスロットルは必ず Max（←）の状態で使用してください。低速の状態で薪割り作業を行うと力が半減してしまうばかりか故障の原因になる場合があります。

重　要 油圧オイルの温度は、始動前に -12℃以上である必要があります。外気温が0℃未満の場合は、薪を割る前に、ウェッジを数回ゆっくり往復させて油圧系統を暖機してください。冷えた油圧オイルのまま高い負荷をかけると、油圧ポンプを損傷させるおそれがあります。



❶コントロールレバーを前（丸太側）に倒し続けるとウェッジが前進し、薪を割ります。

※ハンドル操作を途中で止めた場合コントロールレバーはニュートラルの位置に戻りウェッジは停止します。

❷コントロールレバーを後ろ（油圧シリンダー側）に倒し続けるとウェッジが後進（後退）します。

※後進（後退）時はレバーがロックされ、手を放してもウェッジが動き続けるのでご注意ください。

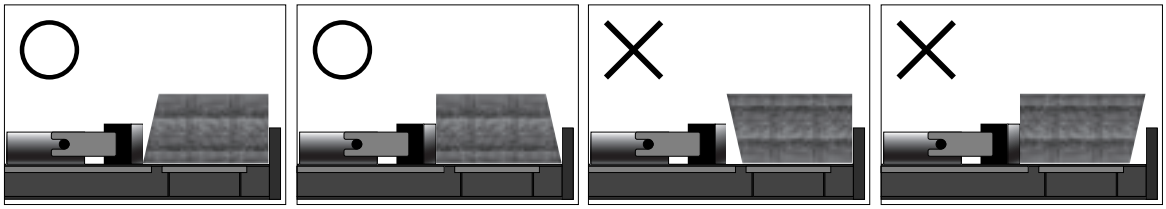
※後進（後退）時にレバーをニュートラル位置に戻すとロックが解除されウェッジが止まります。レバーがニュートラルに戻る際、勢いよく戻るので軌道上に手を置かないでください。

注　意 本機は木材を木目に沿って縦方向に割る目的にのみ使用してください。割った薪や木片はこまめに作業区域から取り除き、足元に障害物を置かないように保ってください。

■丸太の置き方（水平型・ナナメ型）

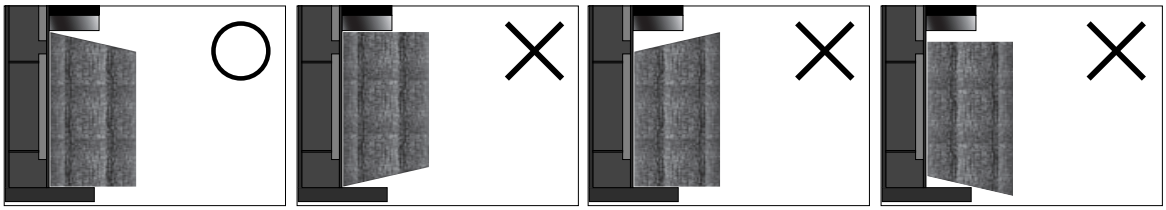
丸太をビームにセットする際は下記の図の様にエンドプレートに丸太が固定されるようにセットしてください。丸太がグラついたり、丸太とエンドプレート・ビームとの間に隙間があると思わぬ方向に丸太が動く可能性があり大変危険です。十分に注意して固定される位置に丸太をセットしてください。水平型またはナナメ型でご使用の場合は丸太の直径サイズ 30cm 以内、重量 30kg 以内にしてください。それ以上の丸太を破砕する場合は垂直姿勢にしてご使用ください。

破砕最大径（水平型・ナナメ型）	直径 30cm 以内
最大荷重　（水平型・ナナメ型）	重量 30kg 以内



■丸太の置き方（垂直型）

丸太を垂直型に置く場合は、エンドプレートから丸太が転がらない位置にセットしてください。また丸太がエンドプレートから大きくはみ出していると転落・転倒の危険があります。その際は、丸太を二つに割るなどしてエンドプレートから大きくはみ出さない様にして作業を行ってください。



3

薪割り機の移動方法

サポートスタンドを持ち上げる（浮かせる）姿勢で、薪割り機を移動することができます。ただし、本機は公道での走行は禁止されています。あくまで私有地等を移動する際の補助的な使用としてください。

警　告　本機の上に人を乗せて移動してはいけません。タイヤに過度な空気を入れないでください。タイヤが破裂し、重傷事故につながるおそれがあります。タイヤが著しく摩耗または損傷しており、また空気圧を保持できない場合は、本機を移動しないでください。

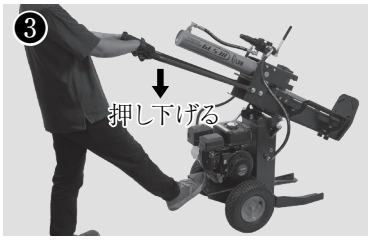
注　意　移動する際は必ずエンジンを停止し、本機のエンジンやシリンダー部が冷えた状態であることを確認してください。またビームやログクレードル上に物や薪、木片などがない状態にしてください。

❶タイヤに摩耗や損傷がないことを確認してください。移動前にはタイヤの空気圧を点検してください。（12 頁参照）

❷薪割り機の姿勢をナナメ型に切り替えます。（14 頁参照）

❸U 字ハンドルを両手でしっかりにぎり、エンジンベースマウントの端に片足をかけてバランスを取りながら、ハンドルを押し下げます。薪割り機の前方が上がり、サポートスタンドも持ち上がります。

❹U 字ハンドルから決して手を離さず、バランスを保ちながら慎重にゆっくりと本機を移動させます。





注　意　車両への積載・積み下ろしは、一人で行うことは危険なため、必ず複数人で行ってください。

⚠ 警　告　ご使用直後はエンジンやマフラー等が高温になっております。直接手で触れるとやけどの危険がありますのでご注意ください。メンテナンスや収納する場合はエンジン停止後に時間をおいて本機が冷えた状態で行ってください。

本機をご使用後、保管するときは、下記の事項に注意してください。

○ご使用後は「6 項 保守点検 18 頁」の項目に従い定期的な点検メンテナンスを行ってください。適切な点検メンテナンスが行われていない場合の不具合・故障については保証期間内であっても保証対象外となる場合があります。

○付着した木くずや木片を本機から取り除いてください。とくにビームやシリンダー等に木くずが混入するとオイル漏れや不具合の原因となります。

○ウェッジ底面とビームの接触面やシリンダー等可動部にグリスを塗布してください。

○油圧シリンダーのピストンロッド部の露出部分並びに、塗装されていない部分や、塗装が剥がれた部分には、グリスを塗ってください。

○ゆがみ、ネジの緩み、異音等がみられる場合は必ず修理・交換をおこなってください。

○手入れ後は、雨風の当たらない場所に保管してください。

○次回ご使用が 1 か月以上予定がない場合は本書の「長期保管時の注意 23 頁」ならびにエンジン取扱説明書の「長期保管」の指示に従い保管してください。

6 保守点検

1 点検整備の注意事項

危　険

○燃料の補給時は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。

○点検整備のために、本機を持ち上げるときは、しっかりとしたガレージジャッキを使い落下防止をかけてください。タイヤを石や木片に乗り上げて、本機の下へもぐり込んではいけません。落下防止を怠ると、はさまれる危険があります。

○薪割り機を上げて点検・整備するときは、薪割り機が落下しないように、安全支柱、安全ブロックなどを用いてください。怠ると、なんらかの原因で本機が落下したときに、傷害事故をおこす危険があります。

○本機は常に清潔に保ち、グリスやオイル、枯草の堆積など火災のおそれのあるものを取り除いてください。

○オイルの交換作業は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。排油は運転終了後、油温が適当に冷えてからおこなってください。本機に付着したオイルはきれいにふきとってください。

警　告

○エンジン回転時およびエンジン停止直後のエンジン本体、マフラーや油圧機器は高温のため触れるとやけどをします。エンジン本体、マフラーや油圧機器などには不用意に触れないでください。

○点検や整備のために本機に取りつけられている安全のための保護カバーを取り外すときは、その部分の作動が完全に停止していることを確認してから、保護カバーを取り外してください。点検や整備のために取り外した保護カバーは必ず元の通りに取り付けてください。

注　意

○各部の点検・整備をするときは下記の３項目を励行してください。

a）交通の危険が無く、平坦で安全な場所（屋外）に本機を停止させます。

b）サポートスタンドを地面へしっかり下ろし、タイヤを固定します。

c）本機に薪や丸太を乗せたまま点検をしないでください。

○点検・整備はエンジンなどの高温部分が完全に冷えて油圧シリンダー等の圧力が抜けている状態でおこなってください。

○点検･整備のときは、適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検･整備をおこなうと、作業中のケガや整備不良による事故の危険性があります。

危　険

各部の性能を維持し、低下させないために指定オイル以外は使用しないでください。

2 仕業点検

本機を使用する前に、仕業点検をおこなってください。事故や故障を未然に防ぐためには欠かすことができません。
機械を一周すれば簡単にできますので、作業開始前に点検をおこなってください。

○ボルト･ナットの緩み、オイル･燃料の量およびにじみの有無、レバー類の作動具合、各部の油脂状態など。

※仕業点検により不具合（異常）が発見された場合は直ちに補修などの措置を講じてください。絶対にそのまま使用しないでください。

■仕業点検一覧表

1	前回使用時の異常箇所
2	オイル各種・燃料漏れの点検
3	燃料の点検、補給
4	エンジンオイルの点検
5	油圧オイルの点検・補給
6	操作ラベル、警告ラベルの貼付状態の点検
7	ボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみなどの点検
8	ウェッジ、ビーム部分のゆがみ、破損の点検、コントロールレバー操作具合の点検
9	タイヤの摩耗や亀裂の点検・空気圧の点検
10	可動部へのグリス塗布

※エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をご参照願います。

3 定期点検・整備（定期点検一覧表）

本機を定期的に点検整備するかどうかによって、本機の故障や寿命に大きく影響するので、定期的に点検・整備を実施してください。
また、作業条件が悪い場合には早めに点検整備を実施してください。

●毎運転前　◎初回　○通常

点検項目		次の運転時間毎に点検・整備をする　h			
		毎運転前点検	25	50 ～ 100	その他
エンジン関係	各部ボルト・ナットの点検・締め付け	●			
	燃料もれ・油漏れの点検	●			
	エアクリーナーの清掃・点検	●			
	リコイルスターターハンドル周辺の清掃	●			
	マフラーカバー周辺の清掃	●			
	エンジンオイルの点検・補給	●			
	エンジンオイルの交換		◎ 初回のみ	○	
	燃料コックの点検・清掃			○	
	点火プラグの点検・清掃			○	
	燃料パイプの交換				1年毎に交換
	燃料の点検・補給	●			
薪割り部	油圧オイルの点検・補給	●			
	ウェッジ・ビーム部分のゆがみ、破損の点検	●			
	タイヤの摩耗や亀裂の点検・空気圧の点検	●			
	ボルト､ナット､ピン類の欠落､ゆるみなどの点検	●			
	操作ラベル、警告ラベルの貼付状態の点検	●			
	コントロールレバーの操作具合の点検	●			
	可動部へのグリス、オイルの補給	●			
	ストッパー・ロックの取り付け状態の点検			○	

※エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をご参照願います。

4 燃料について

危　険

○燃料は非常に燃えやすく、危険です。取扱いには十分注意してください。

○燃料の補給時、燃料フィルタの清掃・交換、燃料パイプの交換など燃料系統の整備時には必ずエンジンを停止して、くわえタバコや火気の近くで作業しないでください。

○こぼれた燃料はいつもきれいに清掃してください。

エンジン	GB18G
燃　料	無鉛レギュラーガソリン
規定給油量	3.1 L



重　要

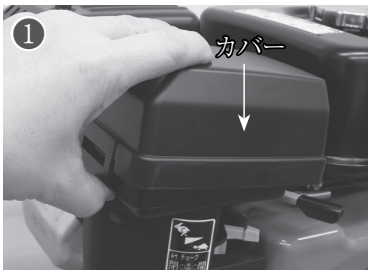
○燃料を補給する場合は、必ず燃料のストレーナを通してください。

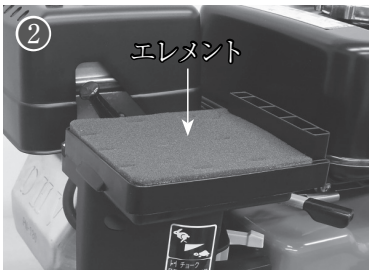
○燃料タンク内にゴミや水が混入しないように十分注意してください。

○燃料をペットボトルなどに入れて保管しないでください。また、ペットボトルなどに入れた燃料を使用しないでください。エンジン故障の原因になります。

5 エアクリーナー点検・清掃

エアクリーナーは毎運転前に点検を行ってください。また砂ぼこりの多い場所でのご使用後は清掃・点検を行ってください。





※エレメントの汚れがひどい時や、スポンジが劣化している時は新しいものに交換をしてください。

※点検後はカバーを確実に組み付けてください。

❶エアクリーナーのカバーを外します。

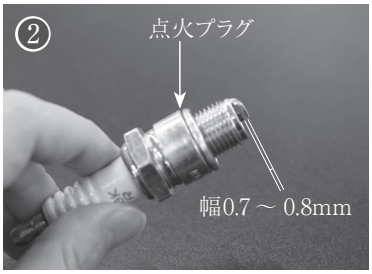
❷中のエレメントを点検してください。スポンジ部分は中性洗剤で洗い、よく乾かしてからエレメントにきれいなエンジンオイルを塗布し、よく絞ります。オイル分が多いとマフラーから煙が出ることがあります。

6 プラグ清掃・交換について

注　意

エンジン停止直後は、マフラーやマフラーカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとやけどの危険があります。プラグの点検・交換は安全な温度に下がった状態で行ってください。





エンジンが正常に始動しない場合、もしくは使用 50 時間毎にプラグの清掃を行ってください。プラグの汚れがひどい場合は新しいものと交換してください。

❶エンジンのエアクリーナーとマフラーの間にあるプラグキャップを引き抜くと、点火プラグがあります。

❷点火プラグをプラグレンチ等で外し、プラグの先端の汚れを取り除き、紙ヤスリで磨いて、スキマ調整をします。間隔は 0.7 ～ 0.8mm 前後になるようにしてください。

プラグ型式	BP6HS
プラグレンチサイズ	20.8 mm
清掃時期	1 年または 50 時間毎

7 油圧オイルについて

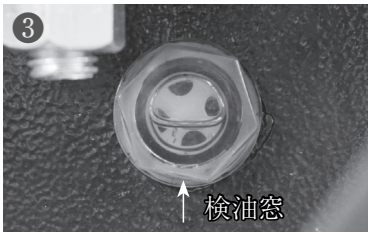
危　険 薪割り機稼働時は油圧ポンプやバルブ部に高い圧力がかかっています。高圧の流体が皮膚に触れると皮膚が負傷するだけでなく、皮膚を貫通して体内に侵入し、重傷を負うおそれがあります。油圧オイルのメンテナンス・点検を行うときは、必ずエンジンが冷え、油圧が抜けた状態で行ってください。万一負傷した場合は速やかに医師の診断を受けてください。

■油圧オイルの適正量と交換方法









オイルの種類	VG32 油圧オイル
容　量	11 L
交換時期	1 年または 100 時間毎

❶薪割り機のシリンダーが冷えた状態で車体が水平になっていることを確認します。

❷油圧オイルをすべて排出する場合は、油圧オイル給油口から、オイルチェンジャーなどでオイルを抜き取ります。残った少量のオイルは、油圧オイルタンクのドレンボルトを外して排出します。排出後はボルトをしっかりと閉めてください。

❸排出後、油圧オイル（VG32）を給油します。検油窓の真ん中あたりに油面が見える量が適量です。

※給油は油圧オイル給油口から給油します。油圧オイルは多すぎても少なすぎても故障の原因となります。多い場合はオイルチェンジャーなどで給油口からオイルを抜き取ってください。

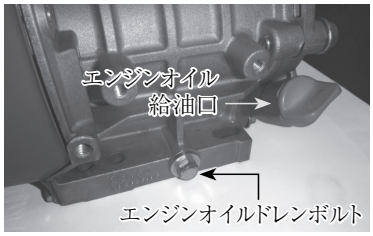
8 エンジンオイルについて

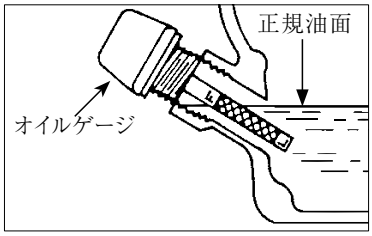
危　険 ○点検・補給・交換作業はエンジンを止めてからおこなってください。火気は厳禁です。
○本機に付着したオイルはきれいにふき取ってください。

注　意 エンジン停止直後は、マフラーやマフラーカバー、配管、油圧機器、エンジン本体およびエンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとやけどの危険があります。オイルの点検、補給、オイルの交換は安全な温度に下がった状態で作業してください。

■エンジンオイルの適正量と交換方法

オイルの種類	4 サイクル用エンジンオイル（SJ 10W-30）
容　量	0.55 L
交換時期	初回 25 時間 / それ以降は 1 年または 50 時間毎





❶給油口を外してオイル量を点検し正規油面まで補充してください。汚れている場合は交換してください。

❷オイルを交換する場合は、エンジンオイルドレンボルトを外して汚れたオイルを出しきり、排油後はドレンボルトを確実に締付けてください。

❸給油口からオイルを正規油面までいれます。

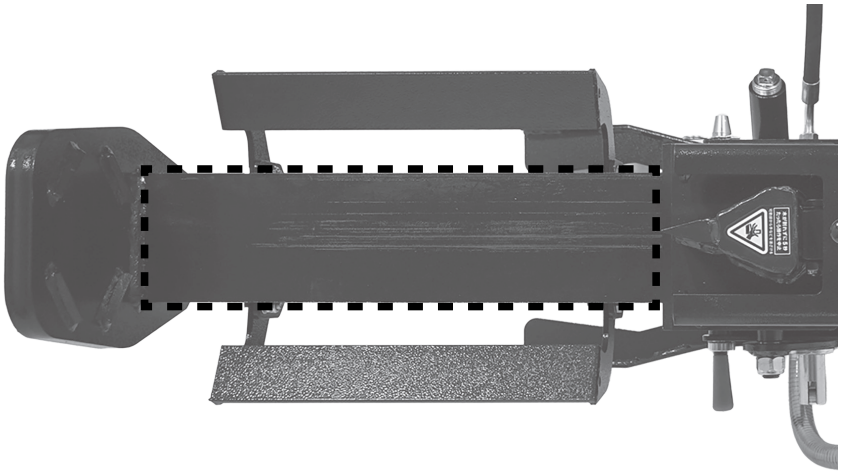
補　足 使用済みエンジンオイルはお住まいの地区のゴミ処理方法に従い適切に廃棄してください。

注　意

○記載されている以外にも、摩擦部や可動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害事故をおこすおそれがあります。

○定期的に油さし・グリスポンプで確実に注油・グリスアップしてください。

作業時毎にビームをグリスアップし、ウェッジがなめらかに動くようにしてください。また、作業後に再度グリスアップし、サビ等から保護してください。



7 寒冷期注意

1

○寒冷期は、使用後必ず付着した泥・水分・異物を取り除いてください。

○本機が凍結している可能性がある場合は、無理に動かそうとはせずに、水・ぬるま湯などで溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。熱湯はかけないでください。

※この場合の故障・ダメージについては責任をもちませんので特にご注意ください。

8 長期保管時の注意

1

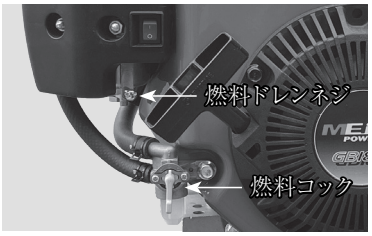
シーズンオフや１か月以上ご使用の予定がない場合は本機を適切なメンテナンスを行った上、雨風の当たらない場所に保管してください。適切な処理をされない場合、次回使用時に不具合が発生する場合があります。その場合の不具合・故障につきましては保証対象外となりますので、くれぐれもご注意ください。

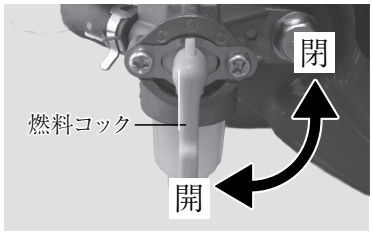
⚠ 危　険　本機の上に薪や物を置いて収納しないでください。

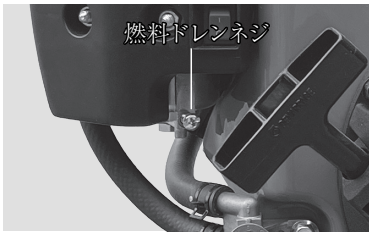
⚠ 警　告　本機を格納するときは、マフラーなどの高温部分が冷えてから燃えやすい物が近くにない場所に格納してください。燃えやすい物の近くに格納すると、火災の原因となります。

■キャブレター内の燃料排出方法

ガソリンは燃料タンク内に入れたまま長期保管すると劣化し、エンジン不調の原因となります。燃料タンク内に大量にガソリンが残っている場合は事前に給油ポンプ等で抜いて量を減らしておいてください。







❶燃料コックを閉じます。

❷排出する燃料を受けるためのオイル受け等の容器を燃料ドレンネジ下に設置し、燃料ドレンネジを緩めるとキャブレター内のガソリンが排出されます。燃料コックを開くと燃料タンクの中のガソリンも排出されます。

❸燃料タンクやキャブレターに残っていたガソリンがすべて排出されたら燃料ドレンネジを締めなおし、燃料コックを閉じます。

■保管時の注意点

本機を長期保管するときは、下記の事項に注意してください。

○付着した泥・木くず等を取り除いて、屋内の硬い乾燥した地面上に格納してください。

○給油・給脂・オイル交換をおこなってください。

○油圧シリンダーのピストンロッド部の露出部分並びに可動部分にグリスを塗ってください。

○手入れ後は、雨風の当たらない場所に置き、ストッパーや輪止め等でタイヤを固定して保管してください。

9 トラブルシューティング

1 トラブル対応表

■エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因	処　置
エンジンが作動しない	燃料が入っていない	購入 1 か月以内の新鮮な無鉛レギュラーガソリンを入れてください。
	燃料タンク・キャブレター内に古いガソリンが残っている	燃料タンクやキャブレター内の古いガソリンを排出し購入 1 か月以内の新鮮な無鉛レギュラーガソリンを入れてください。
	エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃もしくは交換してください。
	点火プラグが緩んでいる	点火プラグを 25 ～ 30 N·m で締めてください。
	プラグキャップの緩みまたは脱落	点火プラグにしっかりとキャップを取り付けてください。
	電極間の隙間が適切ではない	点火プラグの電極間の隙間を 0.7 ～ 0.8mm に設定してください。
	燃料タンクキャップの空気穴が詰まっている	燃料タンクキャップを外すと始動できる場合は、空気穴の詰まりが考えられます。その場合はキャップの清掃・交換をしてください。キャップを強く締めすぎる場合も空気穴をふさぐ原因となります。
始動後、出力が弱まり止まる	燃料タンク・キャブレター内に古いガソリンが入っている	燃料タンクやキャブレター内の古いガソリンを排出し購入 1 か月以内の新鮮な無鉛レギュラーガソリンを入れてください。
	チョークを戻していない	エンジン始動後ゆっくりとチョークを戻してください。
	燃料タンクキャップの空気穴が詰まっている	燃料タンクキャップを外すと始動できる場合は、空気穴の詰まりが考えられます。その場合はキャップの清掃・交換をしてください。キャップを強く締めすぎる場合も空気穴をふさぐ原因となります。
	エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃・交換をしてください。
リコイルスターターハンドルが引けない	薪割りコントロールレバーが「ニュートラル」の位置に戻っていない	コントロールレバーをニュートラルの位置に戻してください。
	エンジンオイルが多く入っている	エンジンオイルゲージで量を確認し、適量になるまで抜き取ってください。
	エンジンオイルが減っている	エンジンオイルゲージで量を確認し、適量を充填してください。
エンジンが不安定	燃料タンク内にゴミや水が混入している。燃料が古い	タンクやキャブレター内の燃料を排出し購入 1 か月以内の新鮮な無鉛レギュラーガソリンを入れてください。燃料タンク内に錆や塵が沈殿している場合はタンクを交換してください。
	点火プラグが故障している	新しい点火プラグを取り付けてください。
	電極間の隙間が適切ではない。	点火プラグの電極間の隙間を 0.7 ～ 0.8mm に設定してください。
	エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃・交換してください。
アイドリングが不安定	エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃・交換してください。
	エンジンシュラウドの空気取入口が塵でふさがっている	空気取入口のゴミを除去してください。
高速運転時にエンジンが失火する／息つきする	プラグの電極間の隙間が接近している	点火プラグの電極間の隙間を 0.7 ～ 0.8mm に設定してください。

■薪割り時のトラブル　1

トラブル	考えられる原因	処　置
木が割れない	木が正しく配置されていない	木目に沿ってウェッジが入るように木を置きなおしてください。
	最大破砕寸法を超えている	他の手段で寸法以内にカットし木を設置してください。
	木の硬さが破砕力を超えている	他の手段で分割してください。
	ウェッジの切れ味が悪い	ウェッジが変形したり、破損していないか確認し、している場合は販売店にご連絡ください。刃先が摩耗している場合は研いでください。
	油圧オイルが漏れている	紙を使用して油圧オイルの漏れを見つけてください。
	シリンダーの圧力が低い	販売店にご相談ください。

■薪割り時のトラブル 2

トラブル	考えられる原因	処　置
丸太が割れない、 または 割れるまでに時間がかかる	油圧ポンプへの油圧オイル供給が不足している	油圧オイルタンク内の油圧オイル量を確認し、不足している場合は供給してください。
	油圧オイルに空気が混入している	油圧オイルタンク内の油圧オイル量を確認し、ウェッジを数回往復させて油圧配管内の空気を抜いてください。
	ポンプ吸込側の抵抗が大きい	ポンプ吸込ホースに詰まり、つぶれ、ねじれがないか確認してください。
	コントロールバルブの設定圧力が低い	圧力計を使用した調整が必要です。販売店または認定修理店へ依頼してください。
	コントロールバルブ内部からオイルが漏れている	コントロールバルブの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	油圧シリンダー内部が損傷している	油圧シリンダーの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
作動時、強い振動がある	オイルの循環経路に空気が混入している	循環経路から空気を抜く必要があります。 発生し続ける場合は販売店にご相談ください。
作動時に油圧オイルが注入口から漏れてくる	本体が水平な場所に設置されていない	本体を水平な場所に設置しなおしてください。
	油圧オイル量が多い	検油窓で油量を確認し、多い場合は排出してください。
静止時に油圧オイルが漏れている	オイルガスケット・オイルシール等の摩耗によるオイル漏れ	販売店にご相談ください。
薪割り中に エンジンが停止する	コントロールバルブの設定圧力が高い	圧力計を使用した調整が必要です。販売店または認定修理店へ依頼してください。
	エンジンの制御調整が適切でない	別冊のエンジン取扱説明書を確認し、必要に応じて販売店または認定修理店へ調整を依頼してください。
低負荷時に エンジンが停止する	油圧配管が詰まっている	油圧システムの洗浄・点検を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	コントロールバルブが詰まっている	油圧システムおよびコントロールバルブの洗浄・点検を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	エンジンの制御調整が適切でない	別冊のエンジン取扱説明書を確認し、必要に応じて販売店または認定修理店へ調整を依頼してください。
	アイドルダウン状態のままエンジンに負荷がかかっている	丸太にウェッジが当たり負荷がかかる前にエンジン回転数が上がるようにする必要があります。 丸太は、最大破砕寸法（長さ）の規定 550mm 以下のものを使用してください。
シリンダーロッドが動かない	油圧ポンプへの油圧オイル供給が不足している	油圧オイルタンク内の油圧オイル量を確認し、不足している場合は供給してください。
	油圧配管が詰まっている	油圧システムの洗浄・点検を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	コントロールバルブが詰まっている	油圧システムおよびコントロールバルブの洗浄・点検を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	コントロールバルブが損傷している	コントロールバルブの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	油圧シリンダー内部からオイルが漏れている	油圧シリンダーの修理を販売店または認定修理店へ依頼してください。
シリンダーロッドの伸縮が遅い	油圧ポンプへの油圧オイル供給が不足している	油圧オイルタンク内の油圧オイル量を確認し、不足している場合は供給してください。
	油圧オイルに空気が混入している	油圧オイルタンク内の油圧オイル量を確認し、ウェッジを数回往復させて油圧配管内の空気を抜いてください。
	ポンプ吸込側の抵抗が大きい	ポンプ吸込ホースに詰まり、つぶれ、ねじれがないか確認してください。
	コントロールバルブが損傷している	コントロールバルブの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	コントロールバルブ内部からオイルが漏れている	コントロールバルブの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	油圧シリンダー内部が損傷している	油圧シリンダーの修理または交換を販売店または認定修理店へ依頼してください。
	エンジンの制御調整が適切でない	別冊のエンジン取扱説明書を確認し、必要に応じて販売店または認定修理店へ調整を依頼してください。

10 仕様

1 仕様表

型式			GLS18
寸法	水平型	全長	1,620mm
		全高	1,190mm
		全幅	620mm
	垂直型	全長	1,140mm
		全高	1,620mm
		全幅	620mm
	乾燥重量		160kg
エンジン	メーカー		MEIKI
	タイプ		空冷単気筒 4 サイクル OHV ガソリンエンジン
	エンジンモデル		GB18G
	排気量		181cc
	燃料タンク容量		3.5 リットル（規定給油量 3.1 リットル）
	エンジンオイル容量		0.55 リットル（SJ 10W-30 推奨）
	点火プラグ		NGK　BP6HS
薪割り部	破砕力		18 トン（US）
	ウェッジサイズ		15cm　硬化鋼
	最大破砕寸法		約 550mm
	サイクルタイム		9 秒
	油圧シリンダー		3.5 インチ× 19 インチ（89 mm× 483 mm）
	油圧ポンプ吐出量		10GPM（約 37.9L/min）
	油圧オイル使用量		約 11L
	タイヤサイズ		13 × 5.00-6

パーツリストについては、プラウ ホームページでのご案内となります。

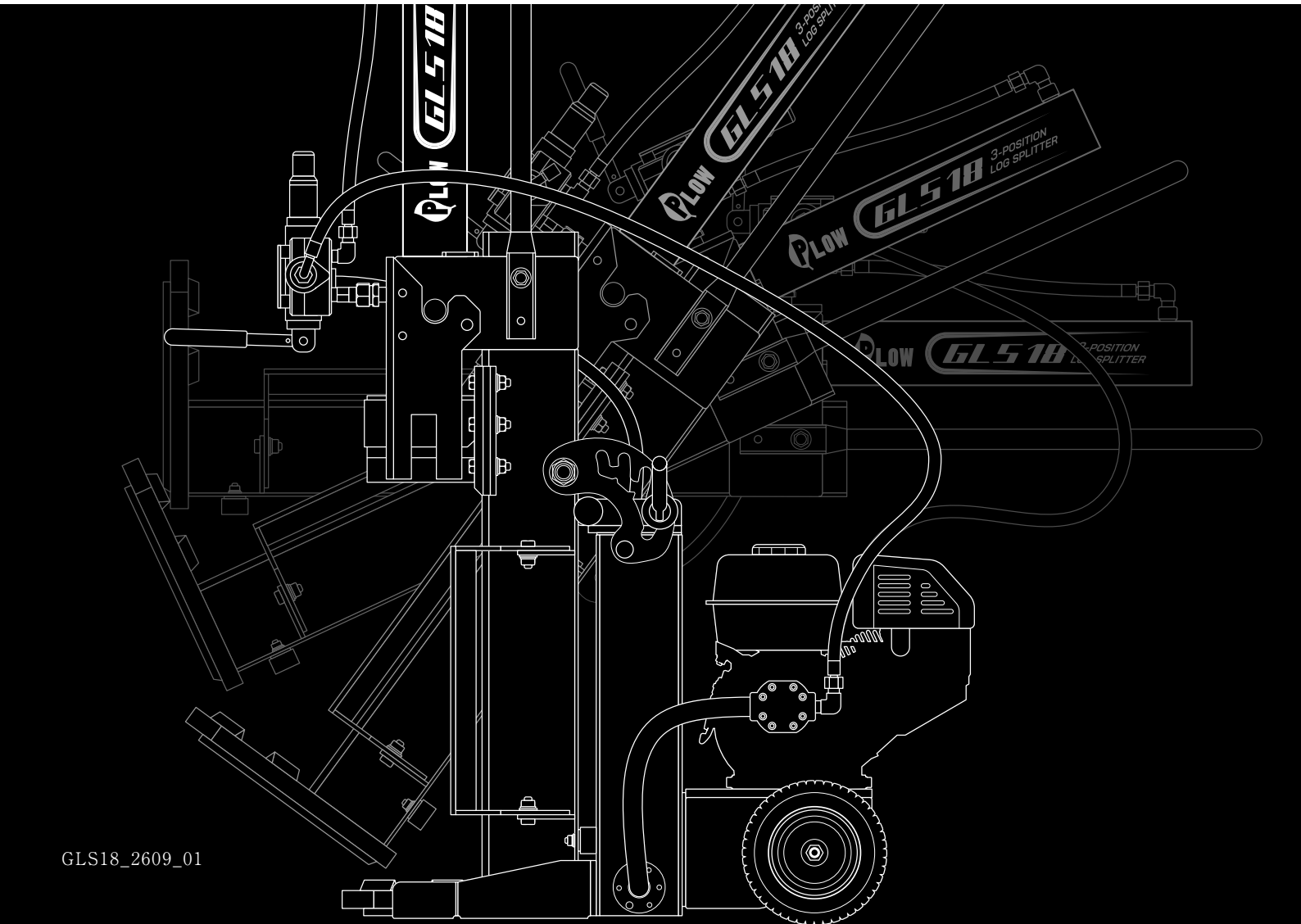
左の QR コードまたは下記 URL からアクセスしてください。

「部品図・パーツリスト」ページ URL

bit.ly/plowparts

PRT-0041

発売元 プラウ株式会社
〒943-0173 新潟県上越市大字富岡256-2
お問い合わせ先 ☎025-530-7025
https://plow-power.com/



GLS18_2609_01